

8月12日発行の「理事会だより」8月号で、すでにある程度お知らせ致しましたが、関東地方の団地や町を対象に、その地域の住環境を調査し、よりよい環境をつくるための提言活動を進めている芝浦工業大学三浦研究室の「住快環プロジェクト」では、今年度の活動の1つとして、わが若葉台団地の住環境について調査することになり、そのための第1回の打ち合わせ会議が去る8月5日(土)、集会室(5)で持たれました。

会議には、団地側から松下理事長以下3役が出席、研究室側からは、真田学さんや岡野一弘さんなど学生が4人参加しました。(写真参照)



会議では、まず、真田さんの方から、「住快環プロジェクト」について、概略、次のような説明がありました。

## 住快環プロジェクトとは

「芝浦工業大学の三浦研究室では、住民のみなさんと共同して、音、光、空気、など、住まいを取り巻く環境を科学的に実測したり、アンケート調査を行い、安全の基準、生活に必要な量、住民の皆さまの考えなどの把握・研究に努めています。住快環プロジェクト”は、この研究姿勢に基づき住民の皆さまが主体となって住環境の改善活動に向き合い、研究室が適切なサポートを行って、住み良い町づくりに貢献するために活動しているところです。」

「研究室のこれまでの活動のうち、昨年度、埼玉県内の地域を調査した例で言うと、三郷市の鷹野東町会では、照度、騒音、二酸化窒素濃度を、また、草加市の原町町会では照度二酸化窒素濃度、それに水質調査を行いました。三郷市では、調査結果から、新規に街灯を設置する際のワット数、街灯の向きの改善策などを提言し感謝されました。草加市の例では河川の水質調査の結果、従来から導水している河川の水質はふさわしくないとして、新しく荒川からの導水を求める意見書を市に提出することが出来ました。」

## 若葉台団地の調査は

### 夜の照度実測が中心

打ち合わせ会議の結果、若葉台団地の場合は、これまで住居周りの防犯灯を3年がかりで更新してきた経過があり、植栽の面からも、防犯灯周りの樹木の剪定には力をいれてきたことから、この機会に、新しい防犯灯の照度は十分なのか、剪定の前と後では、照度にどれだけ違いが出るのか、などのきちんとしたデータをj得ることで、今後の改善に生かせるという考えから、**夜の照度のアンケート調査と実測調査を実施**することに決めました。

8月いっぱいには、組合側と研究室側とで幾度か意見を交換しながら、アンケートの内容を決め、その結果を生かしながら、10月には実測調査に入る予定です。実測の結果は、研究室で専門的に分析され、改善策が検討されます。

**特に調査実施にあたっては、住民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。**